平成 25 年 10 月 13 日

ところ会員　各　位

ところ会　11 月行事案内

鉢形城跡公園・鉢形城歴史館、川の博物館、
杉山城址、嵐山史跡の博物館・菅谷館跡を訪ねる

ところ会の 11 月行事として、福祉バスを利用して、小田原北条氏の北の拠点として存在し、豊臣秀吉軍に滅ぼされて後、徳川領となってから廃城にされた鉢形城跡と関連施設の鉢形城歴史館を見学・探訪し中世武蔵国に於ける立地・地形・風土を利用した中世城郭というものをまなび、寄居の町に出来た川の博物館を見学し、帰路の途中にある中世城郭・杉山城址と県立嵐山史跡の博物館と博物館が立地されている中世城郭・菅谷館跡を見学・散策し、初冬の一日を過ごしたいと思います。

記

日　　時：平成 25 年 11 月 22 日（金）８時 30 分集合スタート　【雨天決行します】

（福祉バスによる日帰り旅行）

集合場所：狭山ヶ丘駅東口ロータリー左側「なかよし」前

参加費　：3,500 円（バスチャーター及び高速利用料・駐車場利用・昼食代・見学料等を含む）

＊上記は見込み料金です。料金は参加者の人数によっては料金が変わる可能性があります。

コース概要

狭山ヶ丘駅東口ロータリー（8:30）➡圏央道・狭山日高インターから関越道路で寄居へ➡鉢形城跡公園鉢形城歴史館（10:00～11:30）➡埼玉県立川の博物館(11:45～12:25）➡寄居の旧鎌倉街道・地蔵堂見学➡晴雲酒造・玉井屋(13:00～14:00)➡小川町道の駅(トイレ休憩)(14:10～14:25）➡杉山城址散策（14:45～15:15）➡嵐山史跡の博物館・菅谷館散策（15:30～16:30）➡松山 IC➡関越道➡圏央道➡入間 IC➡狭山ヶ丘駅(18:00 頃)

参加不参加の連絡

参加不参加の連絡は 10 月 19 日（土）までに連絡願います。

参加の皆様がたへ、今回は福祉バスの利用の旅行ですので参加メンバーの登録が必要です。

登録には年令記載が必要になりますので年齢も連絡願います。

以上

平成 25 年 10 月 13 日

ところ会、11 月行事　訪問先のガイド

鉢形城の概要

鉢形城跡は、戦国時代の代表的な城郭跡として、昭和７年に国指定史跡となりました。城の中心部は、荒川と深沢川に挟まれた断崖絶壁の上に築かれていて、天然の要害をなしています。この地は、交通の要衝に当たり、上州や信州方面を望む重要な地点でした。

鉢形城は、文明８年（１４７６）関東管領（かんとうかんれい）であった山内（やまのうち）上杉氏の家臣長尾景春（ながおかげはる）が築城したと伝えられています。後に、この地域の豪族藤田泰邦（ふじたやすくに）に入婿した小田原の北条氏康（ほうじょううじやす）の四男氏邦（うじくに）が整備拡充し、現在の大きさとなりました。関東地方において有数の規模を誇る鉢形城は、北関東支配の拠点として、さらに甲斐（かい）・信濃（しなの）からの侵攻への備えとして重要な役割を担いました。

天正１８年（１５９０）の豊臣秀吉による小田原攻めの際には、後北条氏の重要な支城として、前田利家・上杉景勝等の北国軍に包囲され、攻防戦を展開しました。1ヶ月余りにおよぶ籠城（ろうじょう）の後に、北条氏邦は６月１４日に至り、城兵の助命を条件に開城しました。

開城後は、徳川氏の関東入国に伴い、家康配下の成瀬正一（なるせまさかず）・日下部定好（くさかべさだよし）が代官となり、この地を統治しました。

なお、鉢形城跡は「２１世紀に残したい埼玉ふるさと自慢１００選」（平成１２年、埼玉ふるさと自慢１００選選定委員会・埼玉新聞社認定）、「日本１００名城」（平成１８年、日本城郭協会認定）、「日本の歴史公園１００選」（平成１９年、都市公園法施行５０周年等記念事業実行委員会選定）、「日本の史跡１０１選」（平成１９年、日本経済新聞社広告局選定）に選ばれています。

公園内の見どころ

鉢形城跡では堀や土塁が良く残り、堀や土塁によって区切られた本曲輪や二の曲輪などの空間が現在でも確認することができます。なお、二の曲輪・三の曲輪・笹曲輪は平成 9 年度から 13 年度にかけて発掘調査が行われ、その成果をもとに、馬出や堀・土塁の復元整備が進められました。特に、三の曲輪では戦国時代の築城技術を今に伝える石積み土塁や四脚門、池などが復元されています。　なお、鉢形城歴史館は外曲輪の一角に建てられています。

また、園内の遊歩道は、深沢川が織りなす渓谷やカタクリ群生地、寄居町指定天然記念物エドヒガンの元を巡り、四季折々の景観が楽しめる公園となっています。

鉢形城歴史博物館

国指定史跡である鉢形城跡のガイダンス施設として、また周辺地域の文化や歴史を学習、体感できる施設として平成 16 年 10 月 17 日に鉢形城公園の開園と同時に、鉢形城歴史館・寄居町埋蔵文化財センターとして開館しました。

埼玉県立川の博物館

埼玉県立川の博物館　（さいたまけんりつ かわのはくぶつかん）は、埼玉県大里郡寄居町小園 39 番地にある、「川と水と人々のくらし」をテーマとした河川系博物館。

1997 年 8 月 1 日に「埼玉県立さいたま川の博物館」として開館した。2006 年 4 月 1 日からは、県立博物館等の再編に伴い、長瀞町にある「埼玉県立自然史博物館」と統合して「埼玉県立自然と川の博物館」として再編され、現在の名称となった。荒川をメインとした展示を主に行っている。博物館の入口には荒川の模型（荒川大模型 173）があり、その隣には水を使ったアトラクション（わくわくランド）もある。略して「かわはく」とも呼ばれている。

2008 年 4 月 1 日より指定管理者制度の導入に基づく入札により乃村工藝社が指定管理を行っている。

今市地蔵堂

地蔵堂の中には一体地蔵と呼ばれる高さ 3 メートルを超える木造の地蔵菩薩立像が安置されています。町指定文化財で室町時代の作と推定され寄木造りで玉眼を施してあります。頭の部分がなめらかに仕上げられているのは地蔵菩薩に特有の「円頂」という形状だそうです。木造の地蔵菩薩像の中でもこれほど大型のものは珍しいそうです。一説には昔、鎌倉へ六体の地蔵菩薩像を運ぶ途中この地にさしかかると一体の地蔵菩薩像が動かせなくなってしまい、仕方がないので一体だけここに安置したのがこの地蔵菩薩像だとも伝えられています。また現在は、子育て地蔵として厚い信仰を受けており遠方からの参拝者も数多くみられるそうです。

晴雲酒造

武蔵野小京都・小川町は関東平野の西のはずれに位置し和紙の里、酒の町、そして有機農法の盛んな町として知られております。晴雲酒造では、地元の米・地元の和紙を利用した製品造りに取り組み続けています。

酒造りの工程見学は 11～3 月の仕込み期間以外は、冬場にできあがった酒の瓶詰めなどの見学になる。かつての仕込み蔵をそのままに、昔の道具などを展示している「酒造資料館」や土蔵の旧仕込み蔵もあり、申し出れば見学できる。酒造りにとって大切な仕込み水そのものも飲むことができる。やわらかな水の味は、さらりとした喉ごしが気持ちいい。見学の後は、生酒、純米酒、原酒等のお酒を試飲してお気に入りを探そう。

自然処　玉井屋

地元農家が丹誠を込めて育てた採りたての野菜。百年以上酒造りをしている玉の井戸から湧き出る仕込水。この二つの素材が玉井屋の自慢です。野菜が本来持っている旨味を引き出し、土臭い素焼きの皿に料理として新しい命を吹き込む。そんな料理を百年の歴史を感じるたたずまいの空間でゆっくり楽しんでいただきたいと玉井屋はこの店を作りました。

道の駅おがわまち

駅長から

都心からわずか１時間半。緑豊かな小川町は「和紙のふるさと」として全国的にその名を知られている手すき和紙の産地です。ぜひ、一度、あなたも和紙すきのチャレンジに当道の駅にお越し下さい。

県内には小川和紙をはじめ、たくさんの伝統工芸が息づいています。いずれも私たちの生活に温もりと潤いを与えてくれるものばかりです。館内の常設展示室では、県指定の伝統的手工芸品すべて展示してあります。小川町特産の和紙については年間を通して手すき体験ができます。映像展示室では伝統的手工芸品の製作工程を映像でご覧いただけます。工芸の里物産館では、小川和紙をはじめ、豊富な物産品を取り揃えています。

杉山城址

築城年代、城主等の歴史的な背景は不明。「新編武蔵国風土記稿」によれば「金子十郎家忠あるいは庄（杉山）主水」が城主であったと伝えるが、金子氏の活躍した鎌倉期の遺構とは考えられない。庄主水は杉山主水弘秀と同一人物と見られるがこれも詳細は不明。松山城を居城とした上田能登守配下の武将の居城であるという考察が正しいかもしれない。松山城と同時期に北条氏の属城となり、天正十八（1590）年の小田原の役で廃城になったと考えられる。

埼玉県立嵐山史跡の博物館

昭和和 51 年(1976 年)に開館。当初は埼玉県立歴史資料館という名称だったが平成 18 年(2006 年)4 月 1 日より現在の名称になった。城館をテーマとする博物館で、主に古代から中世にかけての比企郡に関わる歴史資料を扱っている。

菅谷館跡

比企丘陵のほぼ中央、都幾川の清流を眼下に望む菅谷館跡(すがや・やかたあと)は、鎌倉時代に武蔵武士の畠山重忠が住居した所と伝えられています。重忠以後は、わずかな文献[「梅花無尽蔵(ばいかむじんぞう)」や「東路の津登(つと)」など]に記されているだけで、詳しい変遷を明らかにしませんが、戦国時代には数度にわたる改築を受けて城郭として整備拡大したものと思われます。今日見られる遺構は、戦国時代の城郭の姿を示しているものです。